

## 地域再生計画

### 1. 地域再生計画の申請主体の名称

姫路市

### 2. 地域再生計画の名称

賑わいと活気あふれる中心市街地再生計画

### 3. 地域再生の取組を進めようとする期間

平成17年度から6年間程度

### 4. 地域再生計画の意義及び目標

(1)本市の中心市街地は、最大の集客施設である世界文化遺産・国宝姫路城とJR姫路駅を結ぶ幅員50mの大手前通りを中心に広がっていることが、その特色であるが、景気の低迷や郊外型大型店舗の立地等により、近年その通行量が減少、公示地価が大幅に下落する等停滞傾向が見受けられるところ。

(2)こうした状況を踏まえ、姫路市では、姫路地域の経済の活性化と雇用の安定を図るための「姫路市地域経済再生プラン」の策定や、賑わいと潤いにあふれる都心の整備を図り、まちの活力を創出するための、都心部の一体的・統一的なまちづくりの方向性を示す「姫路市都心部まちづくり構想」の策定に取り組んでいるところである。

また、特別史跡である姫路城跡及び周辺地域を本市最大の観光資源として積極的に整備・活用を図っていくため、昭和61年に策定された特別史跡姫路城跡整備基本構想の見直しを進めるとともに、本市の玄関口である姫路駅周辺地域では、鉄道高架事業にあわせて土地区画整理事業、関連道路事業による面的・総合的な都市基盤整備を図りつつ、播磨の中核となる都市拠点施設の導入を図るキャストイ21計画を進めている。

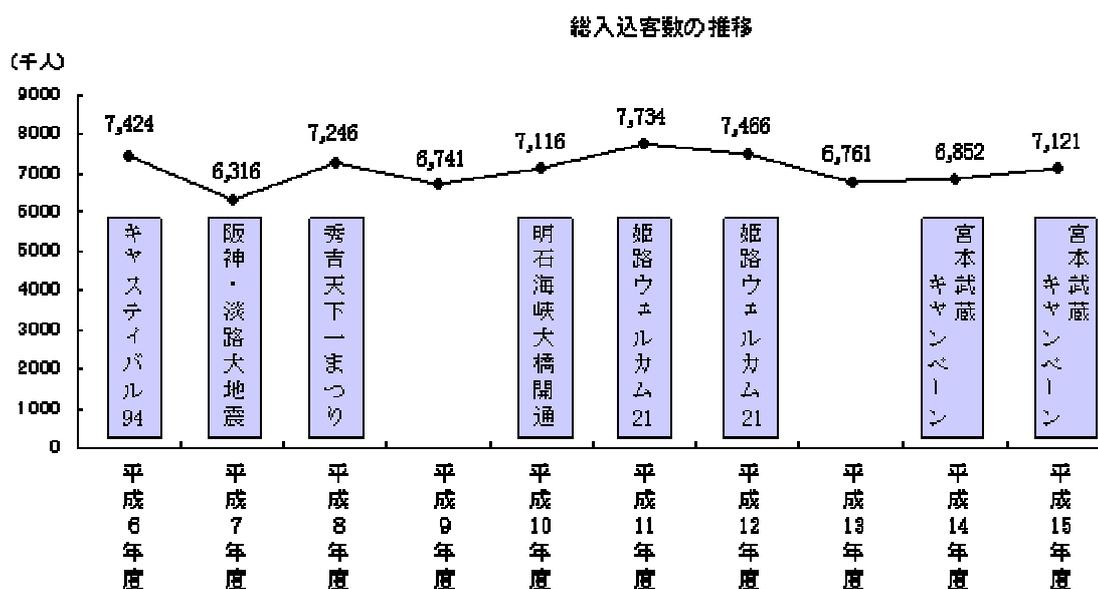
さらに、平成17年度には「日本青年会議所全国会員大会」、平成18年度には「のじぎく兵庫国体」の一部競技、平成20年度には「全国菓子大博覧会」など、本市がにぎわうイベントが続々と開催される予定である。

(3)これらの取組をより効果的なものとするため、本市中心市街地において、大手前通りなどの道路や特別史跡内にある公園を活用した賑わいづくりについて本市の権限内における許可基準の弾力的運用等を検討するとともに、地域再生制度を積極的に活用していくこととしている。特に平成16年6月に提出した地域再生構想で

は、本市の提案「史跡等の現状変更等の許可の権限移譲のための留意事項の明確化」  
「史跡等の現状変更の許可手続きの迅速化」が認められ、これにより発出される通知を踏まえつつ、文化庁等関係機関との協議を重ねることにより、姫路城及び周辺地域の適正な管理を担保し、文化財保護法の理念にかなう積極的な活用と地域の活性化の両立を図っていく。

- (4) また、平成16年度に民間主催で本市の目抜き通りである大手前通り及び特別史跡内にある姫路城三の丸広場で新たに実施し、来場者総数15万5千人、総合効果9億6千200万円という成果を収めた「祭り屋台イベント」の継続実施に対する支援、さらに大手前通りを利用し、試験的に実施したオープンカフェの課題を整理することにより、賑わい創出に資する恒久的な制度の確立を目指していく。
- (5) 世界文化遺産姫路城及び周辺地域、大手前通り等を本市の地域資源として最大限に活用し、有利なロケーションを活かしたイベント等を積極的に実施し、非日常かつ魅力的な舞台を演出することにより、観光客に限らず、中心市街地における人の往来や消費を増大させ、地域経済の活性化につなげていくため、賑わい創出を図る取組を充実させることが必要である。そのためには、平成16年6月に認定を受けている地域再生計画「世界文化遺産姫路城等歴史・文化的資源を活用した国際観光都市づくり」の取組を進めつつ、上記の取組を併せて進める地域再生計画を申請し、以って、賑わいと活気あふれる中心市街地の再生を一層力強く推進するものである。

## 5. 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果



姫路城及び周辺地域の観光入込客数 (千人)

	姫路城周辺						
	姫路城	動物園	美術館	博物館	文学館	好古園	合計
平成 11 年度	713	431	142	113	21	153	1,573
平成 12 年度	662	410	121	47	17	138	1,395
平成 13 年度	708	470	83	64	16	154	1,495
平成 14 年度	729	395	56	74	16	161	1,431
平成 15 年度	814	444	74	71	27	169	1,599

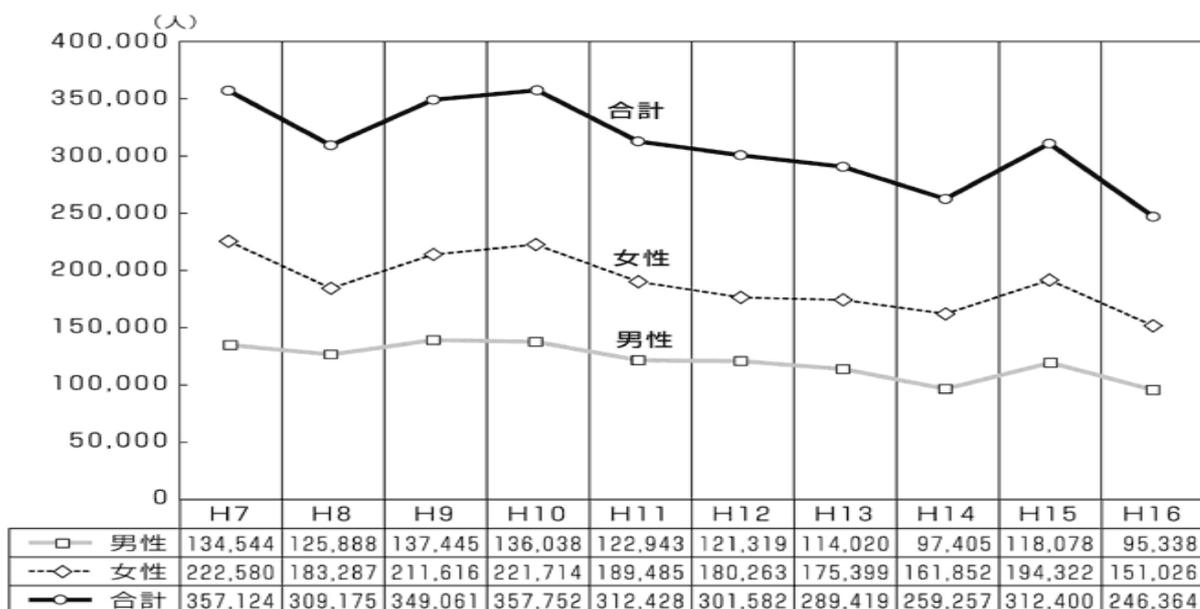
平成 14 年 3 月に策定された「姫路市観光基本計画」では、平成 24 年までに世界各地から年間 1,000 万人が訪れる「1000 万人集客都市・姫路」の実現を目標としている。

姫路市及び城南・城巽校区 商品販売額推移

	年間商品販売額(小売業)		
	姫路市 (万円)	城南・城巽校区 (万円)	城南・城巽校区 のシェア(%)
平成 9 年度	69,909,529	15,349,464	22.0
平成 11 年度	68,167,737	14,096,517	20.7
平成 14 年度	58,074,543	10,877,816	18.7

平成 11 年 3 月に策定された「姫路中心市街地活性化基本計画」では、平成 20 年の中心市街地小売商品販売額の全市に占めるシェアを 20%とすることを目標としている。

姫路市中心商店街通行量 (過去 10 年間の推移)



6 . 講じようとする支援措置の番号及び名称

- ・ 201001 映画ロケ、イベント等及びカーレースに伴う道路使用許可の円滑化
- ・ 201002 民間事業者等の経済活動に伴う道路使用許可の円滑化
- ・ 212002 道路占用許可弾力化(オープンカフェ等)
- ・ 230001 道路使用許可・道路占用許可の手續改善

7 . 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業  
姫路市地域経済再生プラン

8 . その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項  
なし

## 別紙 1

- 1 支援措置の番号及び名称  
201001 映画ロケ、イベント等及びカーレースに伴う道路使用許可の円滑化
- 2 当該支援措置を受けようとする者  
ザ 祭り屋台 in 姫路実行委員会（姫路商工会議所等を中心とする団体）等
- 3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

「1000万人集客都市」の実現を目標とする本市としては、最大の観光資源である姫路城につながる大手前通りの有利なロケーションを活用した賑わい創出に資する取組を積極的に講じていく考えである。

また、姫路市地域経済再生プラン検討懇話会において、オープンカフェ、街角パフォーマンス、市民朝市等都心部の賑わいづくりに向けた提言がなされており、本市としてこれらの検討を踏まえつつ、関係法令、制度を勘案し、実施可能なものから取り組んでいきたいと考えている。

平成16年度に新たな取組として、世界文化遺産姫路城とJR姫路駅を結ぶ本市の目抜き通りである大手前通り及び特別史跡内にある姫路城三の丸広場において、姫路市商工会議所を中心とする奉賛会の主催で、祭り屋台イベント「ザ 祭り屋台 in 姫路」を実施したところ、来場者総数15万5千人、経済効果9億6千200万円という成果を収めたことから、平成17年度も引き続きこのイベントを実施することとしている。

更に、大手前通りが平成17年2月に開通50周年を迎えるため、平成17年を「大手前通り開通50周年記念年」として記念事業の実施を検討している。

このような考えのもと、当該支援措置を活用することにより道路使用許可が円滑に行われることは、申請者である民間等の負担を軽減するものであり、かかる業務に不慣れなものにとっては非常に有意義であると言える。

また、これにより民間主体の地域活性化方策が更に活発になり、本市の進める生きがいと魅力あるまちづくりが一層推進されることが期待できる。

## 別紙 2

### 1 支援措置の番号及び名称

201002 民間事業者等の経済活動に伴う道路使用許可の円滑化

### 2 当該支援措置を受けようとする者

姫路商工会議所等

### 3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

本市では、「1000万人集客都市」の実現を目標に掲げ、観光振興に取り組んでいるところであるが、長引く景気の低迷を受け近年の観光客数は伸び悩んでいる。

また、郊外に大型店舗が相次いで進出しており、中心市街地の通行量は、平成10年の35万人強をピークに、平成11年以降は、30万人前後にまで落ち込むなど中心市街地を取り巻く環境はますます厳しくなっている。

本市においては、最大の地域資源である世界文化遺産姫路城とJR姫路駅を結ぶ目抜き通りである大手前通りを中心に中心市街地が形成されており、また停滞しているものの中心市街地における商店街等産業集積の存在感は依然として大きいものがあることから、姫路城周辺及び大手前通りを中心とした商店街等の賑わいづくりに中長期的に取り組むことが中心市街地の活性化に効果的であると考えている。

このような中、姫路市地域経済再生プラン検討懇話会において、オープンカフェ、街角パフォーマンス、市民朝市等都心部の賑わいづくりに向けた提言がなされており、これら大小様々なイベントを路上でも円滑に実施できるような環境整備に取り組み、以って、当該地域の賑わいの創出を図るものである。

平成16年度に新たな取組として、世界文化遺産姫路城とJR姫路駅を結ぶ本市の目抜き通りである大手前通り及び特別史跡内にある姫路城三の丸広場において、姫路市商工会議所を中心とする奉賛会の主催で、祭り屋台イベント「ザ 祭り屋台 in 姫路」を実施したところ、来場者総数15万5千人、経済効果9億6千200万円という成果を収めたことから、平成17年度も引き続きこのイベントを実施することとしている。

更に、大手前通りが平成17年2月に開通50周年を迎えるため、平成17年を「大手前通り開通50周年記念年」として記念事業の実施を検討している。

このような考えのもと、当該支援措置を活用することにより、これら中心市街地の賑わいづくりに資する取組のより一層の充実・拡大が図れるものと期待している。

## 別紙 3

### 1 支援措置の番号及び名称

212002 道路占用許可の弾力化(オープンカフェ等)

### 2 当該支援措置を受けようとする者

姫路市、大手前通り街づくり協議会、姫路商工会議所等

### 3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

本市最大の地域資源である世界文化遺産姫路城と JR 姫路駅を結ぶ目抜き通りである大手前通りは、本市中心市街地の交通の軸であり、大規模な賑わいづくりの場としての空間利用が期待できる。

また、平成 16 年 11 月 15 日に提出された姫路市地域経済再生プラン検討懇話会の提言においても大手前通りを核とした賑わいづくり方策のイメージが示されたところである。

平成 16 年度に新たな取組として、民間主催で大手前通りを利用し、試験的にオープンカフェを実施した。

また、大手前通りが平成 17 年 2 月に開通 50 周年を迎えるため、平成 17 年を「大手前通り開通 50 周年記念年」として記念事業の実施を検討している。

今後は、上記取組に加え、当該支援措置により発出される通達やガイドラインに基づき、安全で快適な歩行空間の確保に配慮しつつ、オープンカフェ、街角パフォーマンスや市民朝市等道路空間を活用した賑わい創出に資する取組を積極的に講じていく。

また実施にあたっては、姫路商工会議所や大手前通り街づくり協議会、民間と協力することにより、公共性・公益性を担保しながら、賑わいづくりに資する多様な取組が可能となるとともに、本市の進める生きがいと魅力あるまちづくりが一層推進されることが期待できる。

## 別紙 4

### 1 支援措置の番号及び名称

230001 道路使用許可・道路占用許可の手續改善

### 2 当該支援措置を受けようとする者

姫路市、大手前通り街づくり協議会、姫路商工会議所等

### 3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

本市最大の地域資源である世界文化遺産姫路城と JR 姫路駅を結ぶ目抜き通りである大手前通りは、本市中心市街地の交通の軸であり、大規模な賑わいづくりの場としての空間利用が期待できる。

また、平成 16 年 11 月 15 日に提出された姫路市地域経済再生プラン検討懇話会の提言において、大手前通りや商店街のアーケード等道路空間を活用したオープンカフェや路上パフォーマンス等賑わい創出のためのイメージが示されたところである。

平成 16 年度に新たな取組として、民間主催で大手前通りを利用し、試験的にオープンカフェを実施した。

また、大手前通りが平成 17 年 2 月に開通 50 周年を迎えるため、平成 17 年を「大手前通り開通 50 周年記念年」として記念事業の実施を検討しているところ。

これらオープンカフェや路上パフォーマンスを実施するにあたっては、道路使用許可申請を行う必要があり、仮設物を路上に設置する場合には、さらに道路占用許可申請を行う必要がある。当該支援措置を活用することにより、関係書類を所轄警察署又は道路管理者のいずれか一方の窓口で一括して受け付けることが可能となり、申請者の負担が軽減される。申請者の負担が軽減されれば、地域の活性化に資するイベント実施等が促され当該地域の賑わいの創出が期待できる。